

JR不採用事件の早期解決を

10・29山形県集会から



N0. 2505
2007年11月13日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

十月二十九日、山形市・大手門パ
ルス」において、山形県平和セン
ター主催による『国鉄闘争に連帯
し「JR不採用事件の政治解決」を
求める山形県集会』が、国労組
合員と共闘の仲間ら約百人を集め
て開催された。

小泉議長挨拶



挨拶する小泉議長

主催者である小泉県平和
センター議長が「国鉄の首
切りが民間の首切りへとつ
ながっていった。今、自治
労や全農林など様々な労働
者が国から攻撃を受けてい
るが、一般の人がそのこと
から分離されている。今受
けている攻撃も、国労の問
題と本質的に同じ問題だ。
今、一度二十年前のことを
思い出して、この間闘って
きた闘争団・家族に連帯し
ていく必要がある。四団体
がまとまった。これをバネ
に解決につなげていきたい。」
と挨拶。

本部田中副委員長挨拶

続いて国労本部・田中副
委員長から「国鉄闘争の現



本部田中副委員長

状と到達点」と題して講演
が行われ、二十年に渡る国
鉄闘争の経過から現在の到
達点、今後の課題や取り組
み、そして「四党合意以降
様々あったが、いろんな問
題を乗り越え、今は本当に
まとまっている。一日も早
い解決のため、引き続きこ
支援をお願いしたい。」と
熱い話しがされた。

支援単産より報告

次に二つの支援単産より
以下の報告がされた。自治
労山形県本部・木村書記長
より「臨調行革と小泉構造
改革、当時の国労バッシン
グと今の自治体労働者への
それは全く同じ攻撃である。
今の自治体労働者への攻
撃は、国の赤字解消を目的
としているが、本当の狙い
は憲法九条の改悪であり、
と報告がされた。



自治労木村書記長

それに反対する自治労・日
教組つぶしである。構造改
革により非正規労働者の大
幅増、公共サービスの低下
(切捨て)、大幅な人員削
減による弊害など、深刻化
している。国鉄労働者と連
帯しながら公共サービスを
守る闘いをしていく。そし
て、そのことが自治体労働
者の雇用を守ることにつな
がっていくと確信している
との報告がされた。

また全農林山形県事務所・
管代表からは「総人件費改
革にかかわる配置転換が行
われている。配転という、
人生・家族を含めた生活設
計を変える大きな選択を迫
られている。二十年前、国
鉄から採用された人も多く
いる。現在は逆にJRから
の募集も実施されている。
四年間の攻撃のうち、今



全農林管代表

年二年目を終わろうとして
いるが、まだ二年ある。急
激に人員削減が進められ、
将来展望が見えない不安な
どによって組合員のモチベ
ーションは著しく低下してい
る。将来展望を示させるこ
とが必要。今後も国鉄闘争
に連帯し共に闘っていく。」
と報告がされた。

闘争団から決意

続いて、当事者である国
労音威子府闘争団・関野副
団長からは、この二十年間



決意を述べる関野氏

の支援に対する御礼と「二
十年前解雇された時には音
威子府村は人口二千人の村
だった。それが今は約半数
の九七六人になった。

国鉄首切り以降、学校の
先生やNTTなども、どん
どん減っていき、北海道で
一番小さい村になった。は
じめは雇ってくれる企業も
ない(働かない、自分の会
社に入れば組合を作られ
る、など)ところから始め
た。ほとんど、東京への出
稼ぎ、自分も行って米を担

仙総支部が定期大会

10月27日、こく
ろう会館において、仙総
支部第20回定期大会が
開催された。

大会の発言では「和解
以降試験の合格率は上がっ
ているものの10回以上
受験した人が受からない
などは正がされていない」
「科長が対話に応じるよ
うになったがまだまだ改
善は不十分」「施設利用
では色々意見があったが、
やって良かったの声が多
い」「仲間との信頼関係
を深め国労で良かったと
言う団結を作り上げよう」

いで働いた。何とか「地元
で」と、羊羹・木工・味噌
の事業を始めた。十数名の
小さな事業体だが、村で一
番大きな事業体。音威子府
闘争団は四十八人で始まっ
たが、二人が亡くなり、や
むなく離れた仲間もいて、
今は四十一人。子供も大き
くなった。一日も早く解決
したい。二十年という節目
に当たって、今年もあと残
り少ないが、一〇四七名・
四者四団体の団結を固め、
何としても年内・年明け早々
にも解決を図ってきたい。」
と、力強い決意表明がなさ
れた。

地本から決意とお礼

そして仙台地本・橋本委
員長からは、「二十年とい



地本橋本委員長

【山形・伊藤通信員】
※福島県集会は次号報告

など和解以降の問題点の
改善や労働条件改善にむ
けた取り組みの強化など
多岐にわたり活発な発言
が出された。
集約では、発言された
問題の解決や不採用事件
の早期解決、組織強化に
むけ取り組みで行くこと
を確認し閉会した。

新執行部

執行委員長 庄司 修
副委員長 阿部春雄
書記長 原子清貴
執行委員 遠山政孝
原田 靖
及川正昭
鈴木英弘
山口 智



③組織拡大 支部として3名の拡大。減少する中での拡大は意義は大きい。職場での不安・不満を組織し、チェック機能を果し、拡大へ結びつけ



はアクセス線だけの問題ではないとして小牛田でもアンケートの取組み◆運転士だけでなく、分割による誤乗車・乗車位置問題で利用者も大変

国労せんだい2504号のゴルフ大会上位入賞者紹介で柳田敏幸さんと昆野正則さんの氏名が一部間違っておりました。心よりお詫び申し上げます。

また支部は任期一年の役員改選を行い以下の新執行部を選出した。

九月九日～十一日、組合員
五名・家族一名（小林広秀・
左藤芳明・堀内勉・堀内俊介

府駅構内や村のレプリカが所狭しと飾られていました。

人口二千人あまりの小さな村。ここで解雇され、闘いは始まりました。

羊羹・味噌・木品工場を
立ち上げ、今では村の顔とな
り、村から重責をまかされて
います。

交流会は木工品工場にて行われ、豪快なバーベキュー・

『鬭争によつていろいろな人と出会いがあつてよかった』『四者四団体の枠組みの中で

進んでいる。この機会を逃せば解決は無い。闘争団の気持ちは固まっている』『11・30日比谷野音に集中していただきたい。音威子府からは20名参加する』『山形県の集会を開催してほしい』『春・秋の山形オルグでは、元気づけられています』『20年の長期闘争は、人生の多くの時間を費やしたことになる。闘争人生だ。息子(19才・大学生)が生まれる前からの闘争だ』

参加者から

『今回始めて参加して家族の



『氣持ちがわかつた』『納得のいく解決にしてほしい』

音威子府の皆様からの手厚い歓迎に感無量です。二日目の道案内から夜の交流まで付き合ってもらいました。年末に向けた行動に集中し、解決の歓喜を分かち合ひましょう。

つきましては、今後の国労
会館建設資金返済請求につ
いては下記に請求をしてく
ださい。

FAX 022-299-7435
連絡先 TEL 022-293-7460

請求方法

所定の請求書に必要事項を記載の上「国労会館建設資金受領之證」とあわせて提出してください。

